

心のきよい者

心のきよい者というのは、あっちもこっちもといっているところどころに心を配ったり、神様以外のむなしいことに目を向けない。神様のものとされたゆえに、ただただ一心に神様に向かおうとする人のことです。(詩篇 24 : 3-5)

きよくない者が

私たちの心もいつもいろんなことに心を奪われるなと思います。「イエス様が教えてくれる 8 つの幸いは、私たちに幸いを教えてくれると同時に私たちの 8 つの罪に気づかせるものである。」と、ある説教者は言いました。罪にまみれていると知ることから幸いな生き方がスタートします。そして神様のきよめには罪の告白が必要です。(Iヨハネ 1:8-9)また私たちが罪の告白をするためには、神様のことばである聖書が必要です。神の前にも人の前にも素直にごめんなさいと言えない私たちです。自分の罪とも神様とも向き合おうとせず、人のせいにして、なかったかのようにしてしまうこともあります。そんな私たちですが、聖霊の力をいただいて、罪を認め、神様がきよくしてくださるその恵みにあずかりたいと思うのです。

その人たちは神を見る

私たちが神様に意識を向けるなら日常に満ちあふれている神様の働きを見ます。聖書を通して神様の声を聴き、罪が示され神様と向き合い赦しと平安を得、守りがあることを覚え神様が共に歩んでくださっていることを知り、祈りが応えられ神様が生きて働いておられることを覚えます。神様と出会い、神様との交わりの中で私たちは神様を見ます。私たちがあれやこれやと心を奪われることが多くあります。心きよくなくあっちにこっちに目を向けてしまいます。そんな時は神様を見上げたいと思います。神様の方を向くとき神様は私たちにご自身を現してくださる。いやすでに現れてくださっている神様に焦点を合わせることができます。神様は私たちがイエス様の十字架の血によってきよくしご自身のきよい交わりの中にいれてくださいました。私たちは主であって聖徒です。神様のものです。その私たちが神様のきよさに生きようと神様は私たちを導いてくださいます。罪を告白し、十字架の愛と恵みに生きることができるよういつも神様と向き合う美しい関係を築かせていただきたい。そして神を見るという素晴らしい体験をしながら、神様をもっと身近に感じながら、一日一日を主とともに歩んでいく、幸いな者でありたいと願います。神様は私たちを造り変えてくださる唯一のお方です。